令和２年度　学校研究 vision「探究パラダイス」

Ⅰ　これまでの歩み

新学習指導要領では，知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が必要とされている。そこで，本校では，資質・能力にスポットを当て，**「対話」「情報活用」「課題発見」の３つの汎用的な資質・能力**を**教科等横断的な視点**でとらえていくことにした。さらに，日々の授業を中心とした本校の学びの進め方を「羽咋小授業スタイル」として，児童と教師が共有し，**「アドバンスト・ラーニング」**と名付けることで研究を進めてきた。

その後，「対話」「情報活用」「課題発見」の３つの汎用的な資質・能力をさらに育むために，資質・能力を教科や各種活動の年間計画に位置付け，本校オリジナルの**「ハピネス・カリキュラム」**の作成を行った。このカリキュラムを展開させることで，自ら進んで探究する児童が育ち，予測困難な時代にも対応可能な人材につながっていくと考え，研究を進めてきた。

Ⅱ　研究主題・副題

研究主題	「　自ら進んで探究する児童の育成　」
副　　題	～　心が動く道徳教育にチームでチャレンジする　～

キーワードは…
「チーム de 道徳」

【研究仮説】　教科等横断的な視点で，汎用的な資質・能力（言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力）を養い，それらを道徳科を要とした道徳教育で組織的に展開させることで，困難な課題や状況に出会っても，進んで探究しながら解決していく児童，及び，自らの判断により，進んで適切な実践ができるような道徳性をもつ児童を育成することができるであろう。

Ⅲ　取組の内容

１　学びの力を高める授業づくり

（１）羽咋小授業スタイルの確立

①「授業前の心構え」
授業に臨む当たり前の姿勢

②「ＡＴＴＲ」
一時間の授業の流れとポイント

③「アクティブワード」
「アクティブコメント」
対話を活性化する取組

④「授業後への意識」
学びを深めるための取組例

⑤「目指す児童像」
全員が共通理解

（2）付けたい汎用的な資質・能力

【昨年度までに付いた汎用的な資質・能力の具体】

	低学年	中学年	高学年
対話	相手の考えを聞き取って，自分なりの反応を返す力	相手意識をもって，反応する力（対話を２往復以上）	自他の考えを比べ,聞いたことを取り入れて,自分の考えを伝える力
情報活用	課題解決に向けて，情報を収集・選択する力	情報を収集・選択し，まとめる力	試行錯誤し改善しようとする力
課題発見	困り感から課題をつくる力	弱点から課題を見つけ，取り組む力	自分の課題を見つけ，改善しようとする力

【今年度付けたい汎用的な資質・能力の具体】を設定する。

２　道徳教育における授業づくり

（1）道徳教育を通して付けたい汎用的な資質・能力

全学年共通	
対 話	自己内対話，他者との対話，先人の考えを手がかりに考えるメタ認知力
情報活用	道徳的に物事を考える判断力や問題に対して，多面的・多角的に考える情報活用能力
課題発見	日常生活の中での道徳的な課題発見力，道徳的な問題を実践的に解決する問題解決能力

（2）重点的指導の内容項目

Ａ（５）希望と勇気，努力と強い意志
低：Ｃ（１４），中：Ｃ（１５），高：Ｃ（１６）よりよい学校生活，集団生活の充実

低学年	中学年	高学年
「自立」	「感謝」	「貢献」
Ａ（３）節度，節制	Ｂ（７）感謝	Ｃ（１４）勤労，公共の精神

（3）道徳教育単元プログラムによる道徳科の位置付け

テーマを設定し，児童が探究をくり返しながら課題解決に挑み，学びをふり返ることで自己の人生や社会に生かしていくことができるように，道徳科を中心とした**教科等横断的な単元計画**を立てる。

（4）道徳科の授業形態

様々な授業形態の道徳を行うことで，**複数の教員の目で児童を見取る**ことができ，道徳科の指導の充実につながることが期待できる。また，**評価**の点においても様々な視点で，児童を見取ることができると考える。

授　業　形　態	概　　要
ローテーション TT 道徳	全教職員がローテーションで T1，学級担任が T2 となる。
2C2T 道徳	同学年２学級の合同道徳。学級担任がそれぞれ T1 及び T2 となる。
出張道徳	担当学年以外の学級で授業。出張教員が T1，学級担任が T2 となる。

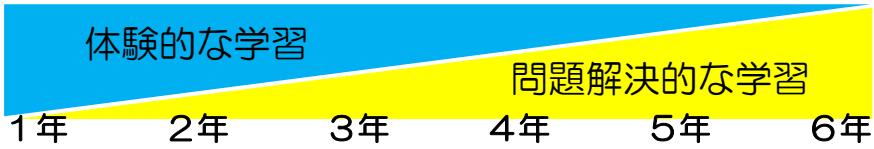
【T１，T2 の役割】
T1「授業の進行」「発問」「ファシリテーター」「指示」「話し合い活動の見取り」等
T2「範読」「発問」「板書」「T1 への助言」「話し合い活動の見取り」「観察による評価」等

（５）道徳科の授業デザイン

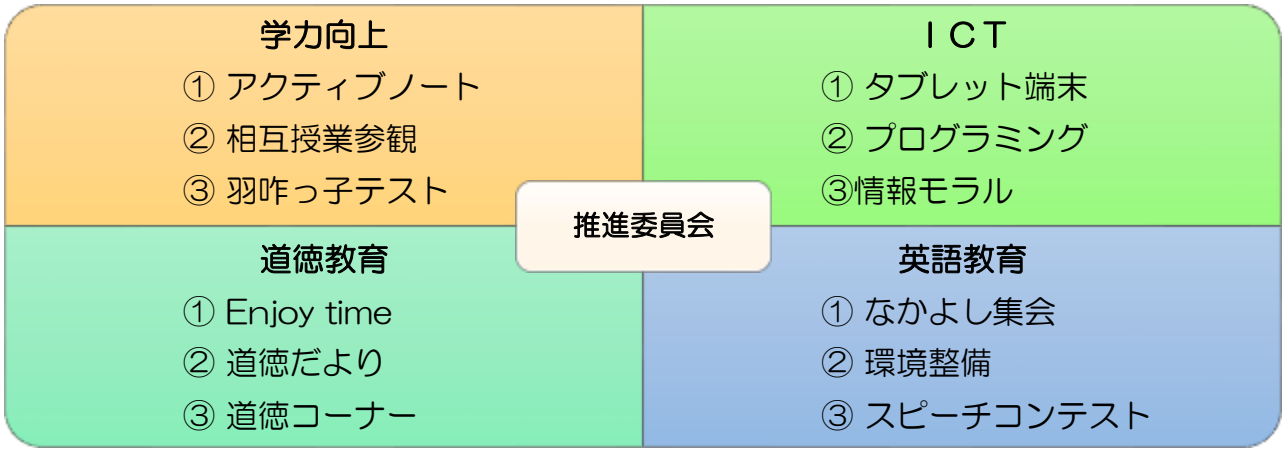
自分事として考え，**議論**する過程を通して，道徳性を主体的に養う時間になるように実践する。児童の**素直な本音や本気**が垣間見えるように，**体験的な学習**や**問題解決的な学習**，以下の**５つのデザインポイント**を参考にして道徳の授業を行う。

①教材提示　②発問　③ワークシート（道徳ファイル）　④表現活動　⑤板書

【体験的な学習と問題解決的な学習の学年ごとの比率】



３　学校研究を支える基盤づくり



４　指導改善を進める体制づくり

（１）低・中・高学年部会による授業づくり（**学びの指針１，２，３**）

児童の発達段階を考慮し，指導体制の工夫と評価の仕方を研究する。

（２）４つの推進委員会による基盤づくり（**学びの指針４，５，６，７，８**）

４つの推進委員会を連動させることで，組織的に基盤づくりを行う。

（３）校内研修会（ＯＪＴを含む）の実施（**学びの指針１０，１１**）

３つの部会と４つの推進委員会の横のつながりを保ち，共通理解を図るための校内研修会を積極的に行う。若プロとの関連を意識しながら，研修を行う。

（４）幼保小中連携や小小連携（**学びの指針１０，１２**）

幼稚園・保育所や中学校，また道徳推進校との連携を図り，指導改善に努める。

（５）通信や授業参観等による保護者・地域との連携（**学びの指針９，１０，１２**）

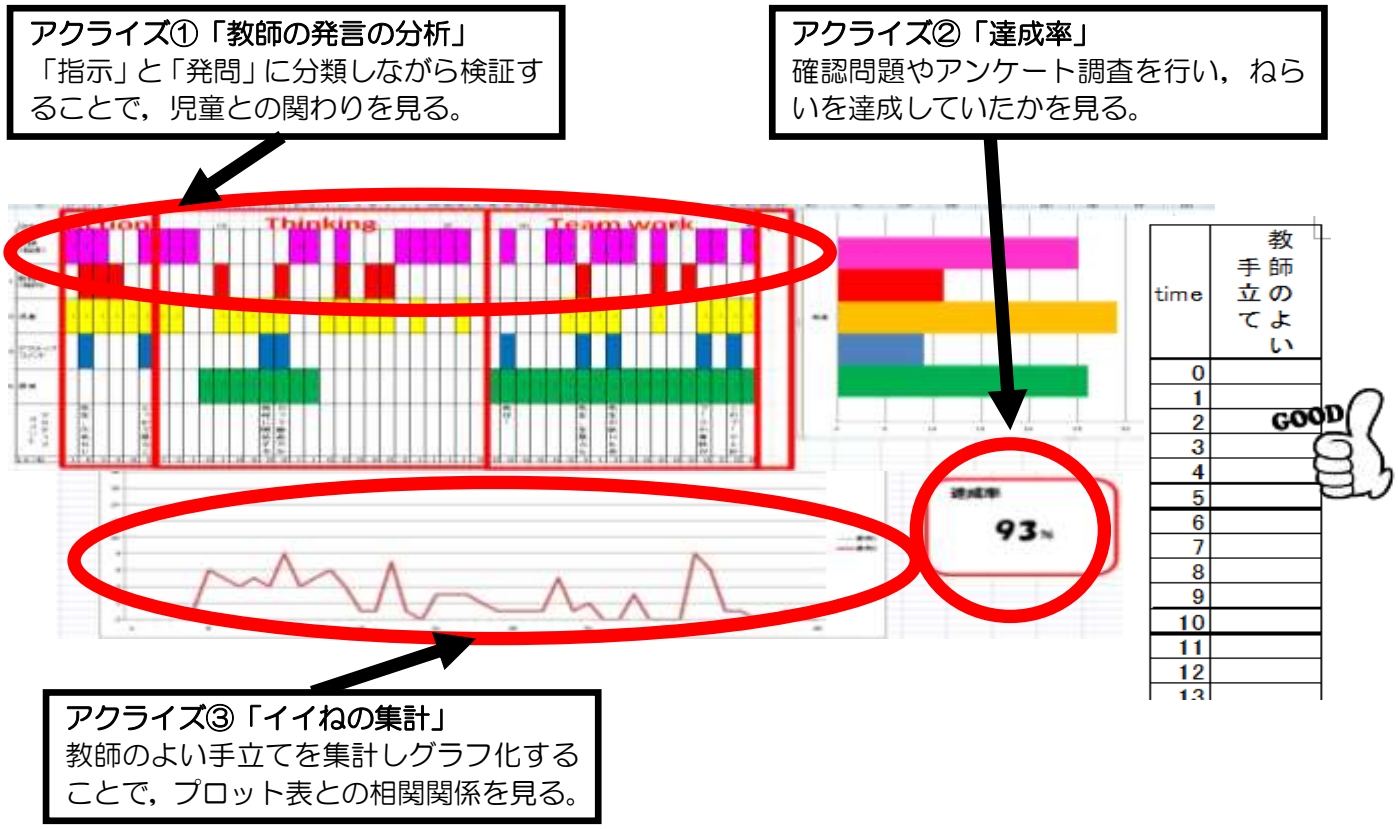
定期的に発行する通信や学校報，ゲストティーチャーを招く道徳の授業参観，保護者へのアンケート調査等，地域に開かれた学校を目指す。

Ⅳ　研究の検証について

１　学びの力を高める授業の検証

（１）アクライズ

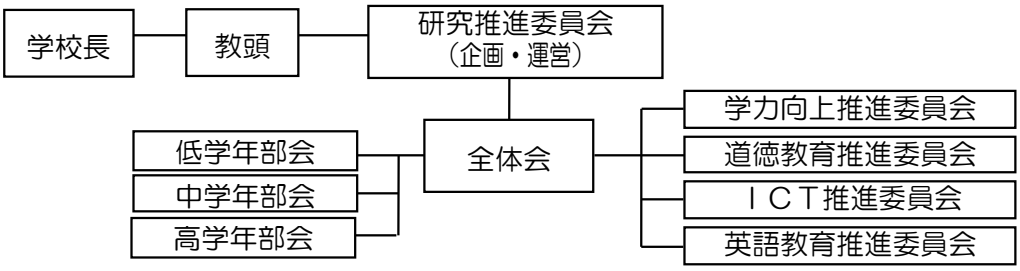
本校独自の授業検証システム「アクライズ」を使い，１時間の授業の中で，教師や児童の発言回数，思考の時間を１分毎の時間軸にそってプロットし，授業改善に生かす。加えてねらい達成に向けた教師の手立てが有効であるか（「イイねポイント」）を分析する。



（２）授業整理会

付箋を使い「成果（青付箋）」と「課題（赤付箋）」を出す。参観する観点を明確にすることで協議を焦点化する。

（３）学校研究だより

研究授業後，授業者は，速やかに考察を含めた研究だよりを作成する。**自身の授業のふり返り**を行うことで，授業改善に結び付ける。さらに，全教員へ**還元**することで，効果的な指導等を**共有**する。

Ⅴ　研究組織について